

8月 保育の広場

令和六年 八月一日
那珂ごとも園

万葉の歌人山上憶良は親ばかり言われるほどの子煩悩として知られていますが、いつの世も子を思う親の心、子が親を思う心に変わりはなく思っています。

今月の保育の広場は「親のこころ、子供のこころ」をテーマに心に響く作品をいくつか紹介します。

妹が生まれて

妹が生まれて
母の子守唄を
またまた晩
ホクは奥の部屋から
母子守唄のおすんぽんぽん
ねした
それがわみこねを知った
一番はぐめかも知れませう

この世の中で一番

この世の中で一番
美しい名前
この世の中で一番
やさしい心
おかあさん
悲しく愉しく
なんども
ああ
おかあさん
それはおかあさん
それはおかあさん
おかあさん
また悲しく
くしかえす
おかあさん

おかあさんのたからもの (男子7歳) 文部科学大臣賞

「おかあさん。なにがほしい。」
「なんにも、ほしいものはない。」
「それじゃあ、今までにももらったもので、一ばんうれしかったものはなあに。」
「とくく。」
「えっ。」
「おかあさんのたん生日に聞いてみたら、おかあさんが、そう言ったので、ぼくは、びっくりしました。そして、おかあさんは、
「とくくんは、かみさまからもらった、たいじな、だいいなだからものなんだよ。」と言った、ぼくの顔を、じつと見ました。
ぼくは、いろいろ考えて、『ありがとうの手紙』をプレゼントしました。おかあさんは、その手紙を読んで、ちよっと泣きそうなお顔になりました。それから、とくくわらって、
「とくくん、大好き。」
と言って、ぼくを、ぎゅーっと抱きました。ぼくは、おかあさんのだっこが大好きです。とてもいい気持ちで、元気や勇気が出ます。
「ぼくは、おかあさんのたからものなんだよね。たからものは、キラキラしているでしょ。だから、ぼくも、とくくしているね。それから、いろんなことを、いっしょけんめいがんばるね。」



ぼくが大きくなっても
ずーっと遊んであげるからね
お父さん

(五歳 男児)



母となる目をかぞえつつ

母となる目をかぞえつつ
思いめぐらす胸のうち
坊やはどんな顔かしら
青空見るのが好きかしら
坊やはどんな声かしら
夜泣きするのじゃないかしら
坊やのために母さんは
上手になりましょ子守唄
母となる目をかぞえつつ
思いめぐらす胸のうち

何も語らず
何もつれず
ゆっくり流れる
「時」がすぎ
またつりにいこうね
お父さん

(二二歳 女性)

